

## 事例 3

## 「檸檬」におけるクリティカルリーディング

### 1 育成を目指す言語能力

#### (1) PISA型「読解力」の立場から育成を目指す能力

ア テキストを理解・評価しながら読む能力を高めること

(ア) 目的に応じて理解し、解釈する能力の育成

(イ) 評価しながら読む能力の育成

＊「読解力向上に関する指導資料—PISA調査(読解力)の結果分析と改善の方向—」(文部科学省)より

この単元の前半では、「檸檬」をテキストとして、次の学習活動を段階的に行った。まず、①観点を絞って、客観的な視点で正しく情報を取り出す。次に、②人物の心情を理解して読み味わう。さらに、③人物の行動を解釈したり、熟考して評価したりする。後半では、批判的な視点をもって、「檸檬」と、その草稿である「瀬山の話」とを読み比べる。テキストの構成、表現についての変更点を明らかにして、書き手の意図を類推したり、根拠を示しながら評価したりする。

#### (2) 国語科の立場から育成を目指す能力

様々な文章を読んで、作者の表現の意図を考えることができるように、文章の内容を表現に即して読み取ったり、批判的な視点をもって読み取ったりするという言語能力を育成する。そのために、現代文の言語活動例の「ウ 文章の理解を深め、興味・関心を広げるために、関連する文章を読んだり、創作的な活動を行ったりすること。」を参考に、「檸檬」と、その草稿である「瀬山の話」とを読み比べて、表現方法の違いや表現者の意図を考えて文章にまとめたり、評価したりする言語活動を取り入れる。

#### ○該当する学習指導要領の指導事項

現代文「C読むこと」

ウ 様々な文章を読むことを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりすること。

オ 目的や課題に応じて様々な情報を収集し活用して、進んで表現すること。

### 2 学習活動の概要

#### (1) 単元名 小説「檸檬」(梶井基次郎)

#### (2) 単元の目標

① 叙述に即して内容を的確に読み取ったり、表現に即して読み味わったりする態度を身に付ける。

(関心・意欲・態度)

② 人物、情景、心情の推移などを、表現に即して読み取る。

(読む能力)

③ 批判的な視点をもって様々な文章を読み、書き手の意図や文章の内容をとらえて自分なりの考えを深める。

(読む能力)

④ 言葉による認識の可能性を広げ、思考力を深め感受性を豊かにすることにつながるように、語彙を豊かにする。

(知識・理解)

(3)単元の評価規準

| 関心・意欲・態度                                                         | 読む能力                                                                                                            | 知識・理解                                                 |
|------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|
| ①文章を読んで、内容を的確に読み取ったり、表現に即して読み味わったりして、ものの見方、考え方を広げたり深めたりしようとしている。 | ①文章に描かれた人物、情景、心情の推移などを的確に読み取っている。<br>②批判的な視点をもって「檸檬」の結末を解釈したり、「檸檬」と「瀬山の話」を読み比べたりして、書き方や書き手の意図について自分なりの考えを深めている。 | ①言葉による認識の可能性を広げ、思考力を深め感受性を豊かにすることにつながるように、語彙を豊かにしている。 |

(4)指導と評価の計画（8時間）

| 時間          | 学習活動                                                                                                                                                                              | 指導上の留意点                                                                                                | 単元の評価規準と評価方法                                                |
|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|
| 1<br>5<br>2 | 言語事項の確認と内容の把握<br>(1)漢字や語句に注意しながら全文を読み、印象に残った部分をワークシート資料1に記入する。<br>…読み1回目<br>(2)「私」の置かれている状況と、時制についての表現を抜き出して、ワークシート資料1に書いて整理する。<br>…読み2回目<br>(3)段落ごとの内容をワークシート資料1に整理する。<br>…読み3回目 | ○予習として語句の意味を調べさせておく。<br>○読む目的をはっきりさせて、段階的に内容を把握させる。<br><br>○状況に関して観点を提示する。<br>○本作品における特徴的な時制の構成を理解させる。 | 知識・理解①<br>(ワークシートの記述内容の確認)<br><br>読む能力①<br>(ワークシートの記述内容の確認) |
| 3<br>4      | 「私」が惹かれる物との関わりから、「私」の行動と心理の変化を考える<br>(1)段落ごとの「私」の行動や心情の描写から、「私」の性格や心情の変化を読み取り、ワークシート資料1に記入する。<br>(2)「私」の鋭敏な美意識について理解する。                                                           | ○さまざまな物が、「私」という人物の性格や心情の変化を効果的に表現していることに気付かせる。<br><br>○「私」の鋭敏な感覚に気付かせる。                                | 読む能力①<br>(ワークシートの記述内容の確認)                                   |

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                             |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|
| 5      | <p>これまでの内容の読解と、結末の一文の解釈から、「私」の心情を考える</p> <p>(1)「私」は「試み」によって「現実」から逃れられたか、根拠を明確にして判断し、ワークシート資料1に記入する。</p> <p>(2)判断とその根拠を発表する。</p> <p>(3)小説全体に対する感想を書く。</p>                                                                                                                                                     | <p>○自分の判断の根拠が文章表現中にあることに気付かせる。</p> <p>○他の生徒の意見を参考にして、考えを深めさせる。</p> <p>○肯定、否定それぞれの根拠として挙げられたものを、数クラス分まとめて一覧にして、第6時以降に配付し、フィードバックする。資料2</p>                                                                                        | <p>読む能力②</p> <p>(ワークシートの記述内容の確認)</p>                                                        |
| 6<br>8 | <p>「檸檬」と「瀬山の話」を比較・分析することで、表現の意図を探り、「改良」か「改悪」か考える</p> <p>(1)4人グループで、「檸檬」と「瀬山の話」資料3の変更点を「表現面」・「構成面」から指摘する。そこから考えられる変更の理由を考察する。それらをワークシート資料4に記入する。</p> <p>(2)変更が結果的に改良となっているか改悪となっているかということと、その判断理由を考える。資料4</p> <p>(3)個々の変更点が小説全体の完成度にどう影響しているかを考え、全体的な感想をまとめる。資料4</p> <p>(4)グループごとに(1)～(3)について発表し、質疑応答をする。</p> | <p>↓</p> <p>*資料2を配付して読ませる。</p> <p>○「檸檬」をいくつかの段落ごとにグループの数に分け、それぞれのグループが分担した部分について、比較・分析を行わせる。</p> <p>○「檸檬」と「瀬山の話」とでは、話題の序列に相違があり、表現にも相違があることに気付かせる。</p> <p>○グループの意見をまとめさせる。</p> <p>○グループから提出されたワークシート資料4を印刷して配付し、クラス全体で考えさせる。</p> | <p>読む能力②</p> <p>(グループの話し合いの観察・ワークシートの記述内容の確認)</p> <p>読む能力②</p> <p>(グループの発表の様子と、質疑応答の観察)</p> |

※「関心・意欲・態度」は単元全体を通して評価する。

### 3 評価の例

「檸檬」の読解の最後に、それまでの内容の読解と、結末の一文の解釈から、「私」の心情を考えさせた。具体的には、「私」は「試み」によって「現実」から逃れられたと言えるかどうかを考え、根拠を明確にしてワークシートに記入させ、それを発表させて評価した。肯定派と否定派とはほぼ同数であった。多くの生徒が根拠を本文中の表現に求め、自分なりの解釈を説明することができた。分からないとした生徒もその理由を本文中の表現に求めて述べており、取組の状況は満足できるものであった。また、後半の読み比べにおけるグループ活動では、変更点の指摘とその理由の類推、さらにその変更の結果をどう見るかという点に関して、グループでの話し合いを観察して評価した。生徒はよく協力して、活発に話し合っていた。精読した「檸檬」との比較であるので、細部にわたる比較ができていた。発表においては、「改良」か「改悪」かについて判断したことを、根拠を明確にして説明できており、「評価しながら読む」というねらいを概ね達成できたと言えよう。

### 4 成果と課題

#### (1) 成果

本単元は、PISA型「読解力」の立場から、「目的に応じて理解し、解釈する力の育成」と「評価しながら読む能力の育成」をねらいとして展開した。

前者については、従来、導入部で漠然と行っていた初読を、今回は、正しく情報を取り出すというように観点を明確にして取り組ませた結果、その「目的に応じて」読み取らせることができた。また、小説最後の一文についての解釈については、自己の解釈と他の生徒の解釈との比較から、一つの単語がもたらす解釈の可能性の多様さに気付かせることができた。言葉による認識の可能性を広げることができたと思う。

後者については、「檸檬」とその草稿である「瀬山の話」と読み比べて、筆者が捨象したことや残したことなどを検討することで、筆者の創作の意図や思考過程について考えさせることができた。また、それらの学習を踏まえて、読者が小説に批評を加えることができることに気付かせることができた。このようにして身に付けた批評的に読む意識や態度は、読み手としての立場から翻って、書き手としての立場に立った際にも発揮されることが期待できる。

#### (2) 課題

読み比べの学習は、出典や草稿に当たる作品が存在している作品で、これまでも行われてきた。したがって、PISA型「読解力」の育成に当たる指導が、従来全く行われなかったわけではない。今後は、読み比べの指導の場面だけでなく、他の教材における指導の場面でも、「何が書いてあるか」を生徒に考えさせるだけでなく、「なぜそう書いたか」、「その書き方は適切か」ということを考えさせる指導を、意図的に取り入れていく必要がある。

#### 使用教科書

・『精選現代文』東京書籍

#### 参考文献

- ・田中孝一監修 西辻正副・富山哲也編『中学校・高等学校 PISA型「読解力」－考え方と実践－』明治書院、2007年
- ・石原千秋著『国語教科書思想』ちくま書房、2005年
- ・梶井基次郎著『檸檬・冬の日 他九篇』岩波文庫、1954年

「檸檬」 ( ) 3 年 ( ) 組 ( ) 番 ( )

### 予習ワークシート

#### 《読み一回目》

1 次の語句の意味を調べなさい。

|        |         |
|--------|---------|
| 焦燥 ( ) | 媚びる ( ) |
| 典雅 ( ) | 琥珀 ( )  |
| 翡翠 ( ) | 勾配 ( )  |
| 驟雨 ( ) | 絢爛 ( )  |
| 螺旋 ( ) | 紡錘 ( )  |
| 往来 ( ) | 闊歩 ( )  |
| 諧謔 ( ) | 晒す ( )  |
| 陪調 ( ) | 惡漠 ( )  |

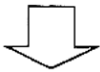
2 全文を読んで、作品中最も印象に残った部分を抜き出してみよう。

#### 《読み二回目》

3 「私」の置かれている状況について、読み取れる部分を書き出してみよう。

- ・ 身分
- ・ 健康状態
- ・ 経済状態
- ・ 生活状況

4 「時制」に関わる表現を抜き出し、作品内の時制の構成について整理しよう。



《読み三回目》

- 5 三つに分けた段落の、それぞれにおける「私」の行動と心理をおおまかに整理しよう。(抜き出しでなくてもよい)

| 段落 | 行 動 | 心 理 |
|----|-----|-----|
| 一  |     |     |
| 二  |     |     |
| 三  |     |     |

第一段落

- 1 「えだいの知れない不吉な塊が私の心を始終おさえていた。」について本文中から該当する部分を答えよ。

①どのような感情を伴うものか。

②原因として考えられるものを全てあげよ。

③その結果私をどのような気持ちにさせるのか。

図示してみよう

- 2 「そのころ」の私はどのようなものにひきつけられたのか、箇条書きで抜き出し、それがどういうものかまとめよ。

・

・

・

↓

- 3 「以前」の私はどのようなものにひきつけられたのか、それがどういったものかまとめよ。

↓

- 4 右の対比から「以前」と「そのころ」の私の心情のどんな違いが読み取れるか。

- 5 「時々私はそんな路を歩きながら、ふと、そこが京都ではなくて……という錯覚を起こそうと努める。」(p.213・11)、「そして私はその中に現実の私自身を見失うのを楽しんだ。」(p.214・5)から読み取れる、私の現実世界に対する気持ちを説明せよ。

## 第二段落

- ・果物屋の魅力

- 1 p.216・8とp.217・12の説明の部分から「果物屋の魅力」について、まとめよ。

|                                                  |         |
|--------------------------------------------------|---------|
| <p>つまりこの果物屋も( )て( )<br/>ものであり、( )と対称的な場所である。</p> | 果物屋のカット |
|--------------------------------------------------|---------|

- ・檸檬の魅力

- 2 私が感じている檸檬の魅力について、次の観点から特徴を抜き出し、最終的にどのようなものの象徴としてあるのか整理せよ。

|                                                                                                                                                                                                                             |                                   |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚           <ul style="list-style-type: none"> <li>色彩</li> <li>形状</li> </ul> </li> <li>・触覚           <ul style="list-style-type: none"> <li>冷覚</li> </ul> </li> <li>・嗅覚</li> </ul> | <p>「つまりは」<br/>この重さこそ</p> <p>⇐</p> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|

・檸檬を買った後の私の変化

「始終私の心をおさえつけていた不吉な塊がそれを握った瞬間からいづらか（ ）とみえて、私は街の上で非常に（ ）。」

3 「あるいは不審なことが、逆説的な本当であつた。」とはどのことをさしているのか、わかりやすく説明せよ。



・「心というやつは（ ）」

・「実際あんな単純な冷覚や触覚や嗅覚や視覚が、ずっとこればかり探していたのだと言いたくなつたほど 私にしつくりしたなんて（ ）」

—それが（ ）

### 第三段落

・私が最後に立つたのは平常あんなに（ ）丸善の前だつた。

1 なぜ丸善に入ったのか。



**心情**・ところが私の心を充たしていた



**行動**・以前あんなにも好きだつた



**心情**・



・「あ、そつだそつだ。」

### ◎第一のアイデア

その意…

その効果…

### ◎第二のアイデア

私の心中に起こつた感情の流れ…奇妙なたくらみ→

想像の中で丸善を爆破させることの意味…

(※丸善の象徴するものとは)



2 そのたくらみによって私は現実から逃れられたか。

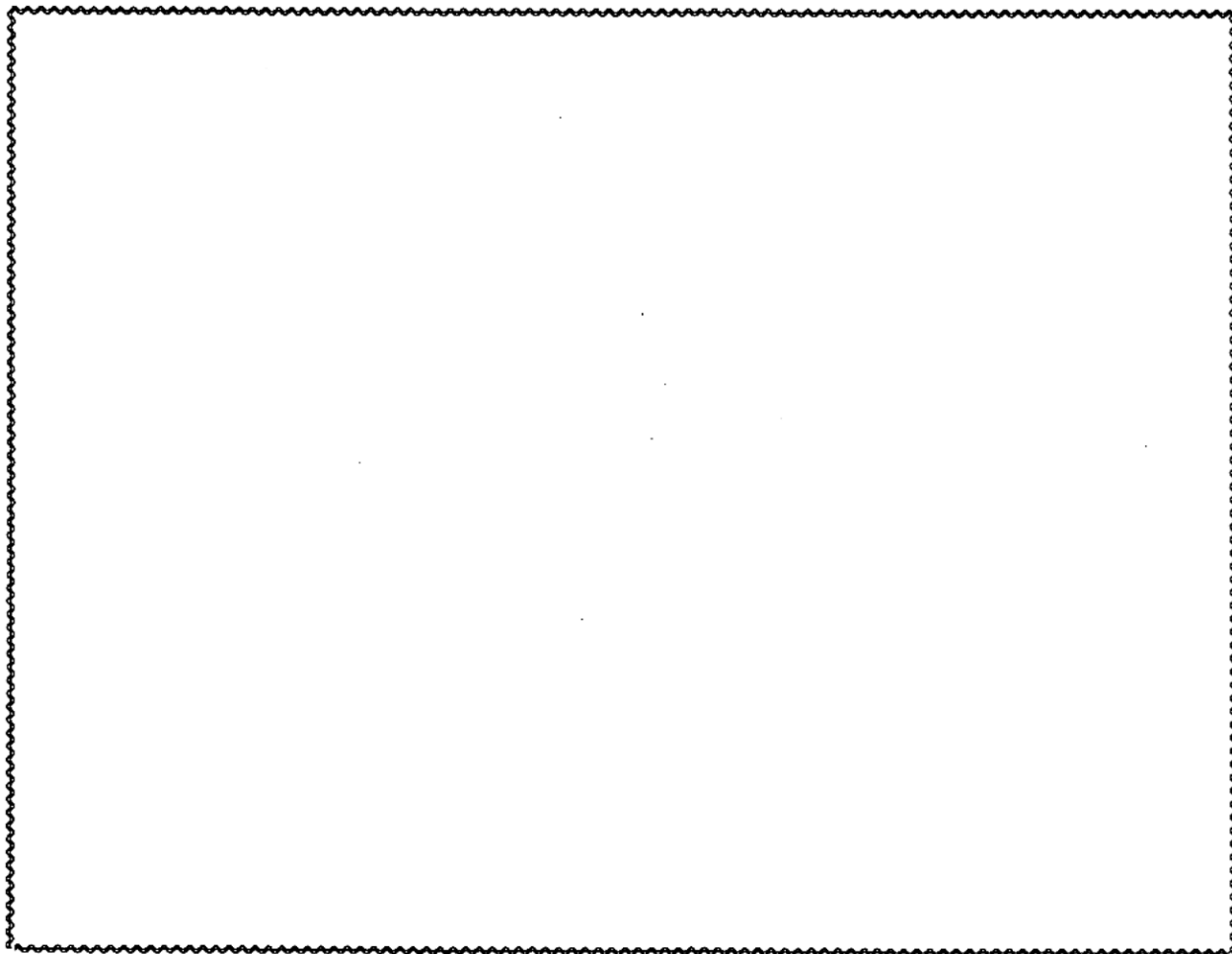
YES

NO

根拠（

）

☆この小説を読んで感じたこと考えたことを、自由に書いてみよう。



# 「檸檬」の「私」は現実（不吉な塊）から逃れられたか否か

YES派 41名 31%

根拠

- ・「微笑ませた」「熱心にその想像を追求した」などの明るく力強い表現から。
- ・「京極」は楽しく明るい場のようなイメージだから。
- ・「裏通り」を好んでいた作者が、繁華街である「京極」へ向かったのは、明らかな変化と言えるので。
- ・「想像」を「熱心に追求」している間だけでも現実から逃れられたと言えるのではないか。
- ・明らかに私の気持ちが良い方向へ向かっているから。
- ・「憂鬱な」気持ちを打破できたと思うから。
- ・この小説の結末は「私」が幸福になったことを指していると思うから。
- ・檸檬を置いてくるという行為は紛れもない現実で、一つの気持ちのはけ口であるから。
- ・避けていた「丸善」に爆弾を仕掛けるという強気な気持ちになれたので。

NO派 87名 67%

根拠

- ・「奇体な」という表現が不吉なイメージだから。
- ・「奇体な」というのが、華やかな「京極」に変な違和感を生じさせており、しつくりこない現実を表していると思うから。
- ・「京極」という繁華な場所へ行くが、もう檸檬がないので効き目はない。
- ・「京極」へ行くという表現より、結局京都から逃れることができなかったから。
- ・「京極を下つて行った」ということは「現実へ戻って行った」ということだから。
- ・「京極」イコール「憂鬱」（イコール「丸善」）だから。
- ・「果物屋」と反対方向の「京極」に行つたので、現実の方向を志向していると思うから。
- ・「京極を下つていった」というのは、繁華な場所から逃げることだと思うので、「私」は変わらないから。
- ・最終的には空想から現実に戻らざるを得ないので。（肺尖カタルや借金が消えたわけではない。）
- ・一時的な幸福であるから。
- ・「丸善」は想像に関わりなく存在し続けるので。
- ・「想像を熱心に追求」したとしても、それはあくまで想像なので。
- ・「心というやつは不思議なもので」いずれまた憂鬱が訪れるであろうから。
- ・現実を表す最後の一行の前に、想像から冷めていく段階があると思うので。
- ・本当に逃げたいと思うなら、そこを去つて別の土地に行くと思うので。本当は逃げたくないのかも。（実は「憂鬱」とは親和性をもつものか？）
- ・安心できる場所を探すために、さらに「京極」を下つていったから。（放浪を続けるので。）
- ・結末の「私」は微笑んでいるが、そのころを振り返って書いている現在の「私」は、「檸檬をもつたことで幸福になれた当時のこと」を書いているのであり、現在は「檸檬」ですら「私」を「現実」から逃れさせる術をもたないことを意味するのではないか。

どちらでもない派 2名 2%

根拠

- ・以前は「京都から何百里も離れた仙台とか・錯覚をおこそうとしていたのが、「京極」という京都の町へ向かっていくのは、現実を受け入れた証拠なので、逃げたのではなく、現実と対峙するようになった。
- ・現実是不変だが、向き合える精神状態へと回復した。（錯覚を起こそうとしてはいないので。）

恐ろしいことには私の心のなかの得体の知れない嫌悪といおうか、焦燥といおうか、不言な塊が——重く、私を圧して、私にはもうどんな美しい音楽も、美しい詩の節も半抱出来ないのがその頃の有様だった。全く半抱出来ないのだ——蓄音器をきかせてもらいにわざわざ出かけても——最初の二、三小節で不意に立ち上ってしまったくなる。

それで始終私は街から街へ彷徨を続けていたのだ。何故だかその頃私は見ずばらしくて美しいものに強くひきつけられたのを覚えている。風景にしても嫌れかかった街だとか、その街にしても表通りを歩くより裏通りを渡るのが好きだったのだ。裏通りの空気が軽かったり、洗滌物の間から臭えていたり——田圃のあるような場末だつたら田圃の畦を伝つていてその空地裏の美が軽つてくるものだ。田圃の作物の中でも黒い土の中からいじこけて生えている大根葉が好きだった。

私はまたあの花火という奴が好きになった。花火そのものは第二段として、あの安っぽい絵具が紙の一端に塗つてあつて、それが花火になると螺旋状にくるくる巻になつてくるのだ。本当に安っぽい絵具で、赤や紫や青や、黒花火という火をつけるとシユシユといひながら地面を這いまわる奴などが一ぱい箱に入つてゐるなど変に私の心を唆つたのだ。私はまたあのびいどろという色硝子で作つたおはしきが好きになつた。南京玉が好きになつた。それをまた私は嘗て見るのが何ともいえない享樂だつたのだ。あのびいどろの味と幽かな涼しい味があるものか。私は小さい時よくそれを嘗て父や母に叱られたものだが——その幼時の記憶が蘇つて来るのか知ら、それを嘗ていて幽かな爽やかな詩美といったような味覚が漂つて来るのだ。

察しはつくだろうが金というものがまゐでなかつたのだし。——私の財布から出来る贅沢には丁度持つて来いのものなのだ。そうだ、外でもない、その廉価ということが、それにそんなにまでも愛着を感じる要素だつたのだ——考えて見てもそれが一円にも値するものだったら、恐らくそのような美的価値は生じて来なかつただろう。恐らく私はそれを金のかかる道具同様何ら興味を感じなかつたに相違ない。

私はこうきいている。金持の婦人はある衣裳が何回だときいて買わなかつた。しかしそれがその二倍も三倍もの値に正札がつけかえられて値上げて買つた。また有産品などというものも値段の上下がその品質の高下を左右する傾きがありはしまいか。私はそれを馬鹿にするのでは決してない。唯それが私の場合と同様なしかも対蹠的な場合として面白く思うのだ。

私はまた安線香が好きだつた。それも〇〇香とかいてあるあの上包みの色が私を誘惑したのだ。それに第一、線香の匂いがどんなにいいものだから君も知つてゐるだろう。

——それで檸檬の話なのだが、私はその日も例の通り友人の学校へ行つてしまつて私一人はつねと取残された友人の下宿からさまよい出したのだ。街から街へ——さつきもいつたような裏街を歩いたり駄菓子屋の前で、極りのわるい空を歩いて悪いくらいに嫌なように廉価な美を捜したり。——しかし何時も何時も同じ物にも倦きが来る。ある時には乾物屋の乾蝦や梅鱈を眺めたりして歩いてゐたのだ。

私が果物店を美しく思つたのは何もその頃に始まつたことではなかつたのだが私はその日も果物店の前で足を留めたのだ。私は果物屋にしても並べ方の上手な所と下手な所をよく知つてゐた。どうせ京都だし、ロクな果物屋などはないのだが——それでもいい店とわるい店の違いはある。しかしそれが並べ方の上手下手、正確に言えばある美しさが感ぜられる所とそうでない所と——それらに決してならないのだ。私は寺町一家の角にある果物店が一等好きだつた。あすこの果物の積み方はかなり急な勾配の台の上に——それも古びた、黒い漆塗りの板だつたと思う——こんな形容をしてもいいが知ら、何か美しい華やかな音楽のアレグレットの流れが——もしそんな想像が許されるなら、人間を石に化するゴルゴンの鬼面——的なものを差しつけられて、あんな色彩やあんなヴァオリウムに凝り固まつたという風に堪きとめられているのだ。も一つはあすこでは例の——山何銭の札がたててないのだ。私はあれは邪魔になるばかりだと思う。昔物がやはり勾配の上におかれてあつたかどうかは疑わしいが、しかし奥へゆけばゆけほど高く堆くたつていて、——実際あの人参葉の美しさなどは素ばらしかつた。それから水につけてある豆たとかくわいたとか。

それにその家では——もう果物店としてはありふれた反射鏡が果物の山の背に傾き加減に決つてあるのだ。——その鏡がまた粗悪極まるもので果物の形がおびただしく歪んでうつる。それが正確な鏡面で正確な映像を映すよりどだけ効果があるかは首肯出来るだろう。

その店の美しさは夜が一番だつた。寺町通は一体に賑かな通りで飾窓の光がおびただしく流れ出しているが、どうも暗いその店頭、店頭のぐるりだけが暗いのだ——一体角の家のことでもあつて、その一方は二条の淋しい路だから元より暗いのだが、寺町通にある方の片側はどうして暗かつたのかわからない。しかしそれが暗くなつたらあんなにも私を誘惑するには至らなかつただろう。も一つはその家の扉なのだが、——その扉が眼深にかぶつた鳥打帽の扉のようになかなか垂れ下つてゐる——そしてその扉の上側——その家の二階に当る所からは灯が射して来ないのだ。そのためにその店の果物の色彩は店頭にて二つほど極のままで点けられてゐる五十燭光ほどの光線を浴びるやうにうけて——暗い闇の中に絢爛と光つてゐるのだ。丁度精巧な照明技師がここぞとばかりに照明光線をなげつけたかのやうに。

これもつづけたらだが、その果物店の景色はあの鎗屋茶舗の二階から見るとそれもまたいい。私は鎗屋の二階の硝子戸越しにあの暗い深く下された果物店の扉は忘れることが出来ない。

ところで私はまた序説が過ぎたやうだ。

実はその日何時ものことではあるしするるので別に美しくも思わなかつたのだが私はなにげなく店頭を物色したのだ。そして私は其処に其処の家にはあまり見かけない檸檬がおいてあるのを見つけた。——檸檬などは極くありふれているが、その果物屋というのも実は見ずばらしくはないまでも極くあたり前の八百屋だつたのだから、そんなものを見つかることは稀だつたのだ。

大体私はあの檸檬が好きだ。レモンエローの絵具をチューブから絞り出して固めたやうな、あの単純な色が好きだ。それからあの純粋な嗜好も。それで結局私はその家で例の廉価な贅沢を試みたのだ。

私のその頃が例の通りの有様だつたことをそこで思い出して欲しい。そして私の氣持がその檸檬の一種で思いがけな

く救われた、とにかく数時間のうちはまぎらされていた。——という事実が、逆説的な本当であつたことを首肯して欲しいのだ。それにしても心という奴は不思議な奴だ！

第一その檸檬の冷たさが氣に入ってしまったのだ。その頃私は例の肺炎カタルのためにいつも身体に熱があつた。——事実友達の誰彼に私の熱を見せびらかすために手の握り合いなどをしたのだが、私の手が誰のよりも熱かつた。その熱い故だつたのだらう、握っている掌から身内に滲み透つてゆくようなその冷たさは快いものだった。

私は何度も何度もその果実を鼻に持つていった。——その産地のカリホルニアなどを思い浮べたり、中学校の漢文教科書で習った茶柑者之言の中に書いてあつた「鼻を揉み」といふような言葉を思い出したりしながら、ふかふかと胸一杯に匂やかな空気を吸い込んだりした。——その故か身体や顔に温い血のほとほりが昇つたりした。そして元氣が何だか身内に湧いて来たような氣がした。

実際あんな単純な冷覚や触覚や嗅覚や視覚が——ずっと昔からこればかり探していたのだといいたくなる位、私にしたりくりしたなんて——それがあの頃のことなんだから。

私は往來を輕やかな昂奮に弾んで、誇りかな氣持さえ感じながら、——大編の向日葵を胸にさして街を闊歩した昔の詩人などのことを思い出したりして歩いてた。汚れた手拭の上へのせて見たり、将校マントの上へ載せてみたりして色の反映を窺つて見たり、こんなことをつづやいたり。

——つまりはこの重さなんだな。——

その重さこそ私が常々尋ねあぐんでいたものだと、疑いもなくこの重みはすべての善いもの、美しいものとなづけられたものを——重量に換算して来た重さであるとか——思ひ上つた諸謔心からそんな馬鹿氣なようなことを思つて見たり、何がさては機嫌だつたのだ。

舞台は變つて丸善になる。

その頃私は以前あんなにも繁く足踏した丸善からまるきり遠ざかつてた。本を買つてよむ氣もない、本を買う金がかつたのは勿論、何だか本の背革や金文字や、その前に立つてゐる落つた学生の顔が何だか私を脅かすような氣がしてゐたのだ。

以前は金のない時でも本を見に来たし、それに私は丸善に特殊な享樂をさへ持つていたものなのだ。それは赤いオードキニシやオードロコシの瓶や、洒落たカットグラスの瓶や、ロココ趣味の浮世模様のある典雅な瓶の中に入つてゐる、琥珀色や薄い翡翠色の香水を見に来ることだつたのだ。そんなものを硝子戸越しに眺めながら、私は時とすると小一時間も時を費したとさへある。

私は家から金がついた時など買ったことはほんの端だつたが、高価な石鹸や、マドロス煙管や小刀などを一氣呵成に眼をつぶつて買おうと躊躇する時の、壮烈なような悲壯なようなあの氣持を味わう遊戲を試みるのも其処だつた。それに私には画の本を見る楽しみがあつたのだ。しかし私はその日頃もう画の本に眼をさらし終つて後、さてあまりに尋常な周囲をみまわす時の姿にそぐわない心持をもう永い間経験せずにはゐたのだつた。

しかし變にその日は丸善に足が向いたのだ。

しかしそれまでだつた。丸善の中へ入るや否や、私は変な憂鬱が段々たてこめて来るのを感じ出した。香水の罐にも、煙管にも、昔のような執着は感ぜられなかつた。私は画帳の重たいのを取り出すのさへ常に増して力が必要だ、と思つたりした。それに新しいものといつては何もなかつた。ただ少なくなつてゐるだけだつた。しかし私は一冊ずつ抜き出しては見る。——そしてそれを開けては見るのだ。——しかし克明にはぐつてゆく氣持は更に湧かない。

しかも呪われたことには私は次の本をまた一冊抜かずにはゐられないのだ。また呪われたことには一度バラバラとやつて見なくては氣がすまないのだ。それで構はなくなつてそこへ置く、以前の位置へ戻すことさえ出来ないのだ。——そうして私は日頃大好きだつたアングルの橙色の背革の重い本まで、なお一層の握え難さのために置いてしまつた。手の筋肉に疲労が残つてゐる。——私は不愉快にただ積み上げるために引き抜いた本の群を眺めた。

その時私は決の中の檸檬を思い出した。

本の色彩をゴチャゴチャと積み上げ、一度この檸檬で試して見たらと自然に私は誘はれた。

私にまた先ほどの輕やかな昂奮が帰つて来た。私は手当たり次第に積みあげ、また慌しく潰し、また築きあげた。新しく引き抜いてつけ加えたり、削りとつたりした。奇怪な幻想的な城郭がその度に赤くなつたり青くなつたりした。

私はやつと、もういい、これで上出来だと思つた。そして怪しく跳り上る心を制しながらその城壁の頂きに恐る恐る据えつけた。

それも上出来だつた。

見わたすと、その檸檬の単色はガチャガチャした色の階調を、ひっそりと紡錘形の身体の中へ吸収してしまつて、輝く渡り、冴えかえつてゐた。私には、埃っぽい丸善の内の空氣がその檸檬の周囲だけ変に緊張してゐるような氣がした。私は事畢れりというような氣がした。

次に起つたなお一層奇妙なアイディアには思はずぎよつとした。私はそのアイディアに惚れ込んでしまつたのだ。

私は丸善の書棚の前に黄金色に輝く爆弾を仕掛けに来た、奇怪な悪漢が目的を達して逃走するそんな殺戮を勝手に自分自身に振りあてて、——自分とその想像に酔いながら、後をも見ずに丸善を飛出した。あの奇怪な放送台にあの黄金色の巨大な宝石を象眼したのは正に俺だぞ！私は心の裡にそういつて見て有頂天になつた。道を歩く人に、その奇怪な見世物を早く行つて見ていらつしやい、といいたくなつた。今に見ろ大爆発をするから。

……ね、とにかくこんな次第で私は思ひがけなく愉快な時間潰しが出来たのだ。

何？ 君は面白くもないといふのか。ははは、そうだよ、あんまり面白いことでもなかつたのだ。しかしあの時、秘密な歡喜に充たされて街を彷徨つてゐた私に、

——君、面白くもないじゃないか——

と不意にいつた人があつたとし給え。私は慌てて抗拒したに違ひない。

——君、馬鹿をいつてくれては困る。——俺が書いた狂人芝居を俺が演じてゐるのだ、しかし正直なところあれほど馬鹿氣な氣持に全然なるには俺はまだ正氣過ぎるのだ。

出典 梶井基次郎著『檸檬・冬の日 他九篇』岩波文庫、一九五四年刊

| 「瀬山の話」                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 「檸檬」                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 考えられる変更の理由                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 「改良」「改悪」とその判断理由                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>表現面</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・冷たさが気に入ってしまったのだ</li> <li>・肺尖カタル</li> <li>・熱い故</li> <li>・私の手</li> <li>・何度も</li> <li>・カリホルニヤ</li> <li>・思い浮べたり</li> <li>・中学校の漢文教科書</li> <li>・言葉を思い出したり</li> <li>・(なし)</li> <li>・元気が目覚めて</li> <li>・(なし)</li> <li>・(なし)</li> <li>・大輪の向日葵</li> <li>・昔の詩人</li> <li>・将校マント</li> <li>・載せて</li> <li>・またこんなことをつぶやいたり</li> <li>・思ってみたり</li> <li>・上機嫌</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・冷たさはたとえようもなくよかった</li> <li>・肺尖を悪くした</li> <li>・熱いせい</li> <li>・私の掌</li> <li>・何度も何度も</li> <li>・カリフォルニヤ</li> <li>・想像に上ってくる</li> <li>・漢文</li> <li>・言葉がきれぎれに浮かんでくる</li> <li>・胸いっぱい呼吸したことなかった</li> <li>・身内に湧いて来た</li> <li>・不思議に思える</li> <li>・一種</li> <li>・美的装束</li> <li>・詩人</li> <li>・マント</li> <li>・あてがって</li> <li>・またこんなことを思ったり</li> <li>・考えてみたり</li> <li>・幸福</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・冷たさを強調する</li> <li>・不吉な魂の正体をはっきりさせたかったから</li> <li>・わかりやすいから</li> <li>・詳しくした</li> <li>・強調した</li> <li>・?</li> <li>・読者にも想像して欲しかったから</li> <li>・中学校の経験はいらないから</li> <li>・記憶が曖昧になっている様子</li> <li>・自分が熱くなっている様子を表すため</li> <li>・檸檬の存在が薄くなってしまうから</li> <li>・「昔」でなくとも良いから</li> <li>・「将校マント」でなくとも良いから</li> <li>・檸檬をびったりとあわせるという意味</li> <li>・自分の中で密かに考える</li> <li>・想像をより現実的に「考える」ため</li> <li>・「幸福」の方が大きいから</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>改良…心地よい冷たさが伝わる</li> <li>改良…「悪く」が小説のイメージに合う</li> <li>改良…わかりやすい</li> <li>改良…檸檬を握るのは掌だから</li> <li>改良…興奮している様子を表す</li> <li>どちらでもよい</li> <li>改良…じわじわと気持ちが高ぶる様子</li> <li>改良…変更の理由と同じ</li> <li>改悪…「昔」の方が思い出す様子が伝わる</li> <li>改悪…強気なイメージが失われる</li> <li>改良…びったりする</li> <li>改良…変更の理由と同じ</li> <li>改良…話の流れがよりスピーディーになる。</li> </ul> |
| <b>構成面</b> <p>「丸善」についての説明が後半にある。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | <p>「丸善」についての説明が前半にある。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | <p>クライマックスにつながるので、直前に入っていたが、前半の「私」の好きな物とのつながりを重視したため。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| <b>全体的な感想</b> <p>「瀬山の話」は、「檸檬」よりも明るいイメージがあるように思う。<br/>同じことを示すような表現でも、言葉や書き方が少し違うだけで、読み手の受け取り方が変わってくるのがおもしろい。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |